

カナミックのさらなる活用のための分析とプラン

インテイク（情報の収集・整理）		アセスメント（評価）		プランニング
情報 （見たこと、聞いたこと、データなど）		理解・解釈・仮説 （わかったこと、解釈、推測したこと）	支援課題 （支援の必要なこと）	対応・方針 やろうと思うこと
1. <u>他事業所との兼ね合い</u> ・カナミックを活用して情報連携をしたいと思うが、日ごろからやり取りをしている事業者がシステム利用登録をしていないため活用できない。		1. ・ケースに関わるメンバーがシステム利用登録をしていないと、「ケース連携部屋」の作成が成り立たない。 ・複数名のメンバーの一部がシステム登録をしていて「ケース連携のお部屋」が作成できたとしても、情報連携に際し、一部にはカナミックで連絡、その他メール、FAX、電話…となると煩雑。誰にどこまで連絡したかがわからなくなり余計に考えることが多くなりその方が負担である。	1.市内の医療介護連携に関わる事業者については全員の登録を目指す。 ・システム利用をしない、できない事業者の事情をヒアリングする。 例えば… 事業所の都合の良い時間帯に合わせ全2回の出前講座の実施。 【1回目】概要説明、申請書記入、預かり。 【2回目】発行されたIDとパスワードを持参し交付。電子証明書インストール、アラート機能設定までをアシストし、事業者内でのケースの連携部屋を作成し、実際に入力操作を体感してみる。	1.①定例の説明会（研修会）の誘いを積極的に行う。さらなる方法の摸索をする。 ・市内事業者にカナミック・メール・電話・FAX・郵送で通知をする。 ・関連団体等の会議でチラシを配布する。 ② 随時の出前講座を積極的に実施する。 ・出前講座の案内をメール・電話・FAX・郵送で実施する。 ・利便性を実感できるところまでアシストする。
2. <u>活用することへの不安</u> ・システムを扱うことが難しいと考えるスタッフが多く、活用までに至らない。		2. ・ICTの取り扱いに苦手意識があり、具体的な登録手続き・操作方法の確認にまで至っていない。 ・システムを使うことで得られる業務の効率化を実感できていない	2.システムを使うことのメリットを実感していただく。 ・システムに慣れるまでに時間はかかるとしても、業務の効率化や費用削減の効果が高い等のメリットを伝える。	2.定例の説明会・出前講座でシステムのメリットについて説明実施。 説明会や出前講座で出た意見や疑問については随時説明資料に盛り込み、効果的な資料を作成し活用する。
3. <u>事務手続きの負担</u> ・登録申請方法がわかりにくい。 ・市への年1回の更新手続きが負担。		3. ・令和7年4月より事務手続きの簡略化をし、運用が開始となっているが以前の手続きの煩雑さによる負担感が強い。	3.事務手続きの負担は随時見直しを行う。 ・（株）カナミックネットワークと随時協議し負担軽減に努める。 ・実際に行うことで取り掛かりやすいことを実感していただく必要がある。	3.事務手続きのアシストの実施や意見の定期的な聞き取りを継続する。 ・実際に事業所に伺い事務手続きのアシストを行う。 ・年1回の市内の医療介護連携に関わる事業者へのアンケートや出前講座等で意見を把握し、対応を見直していく。